

タイトル：三項構造としての承認——ヘーゲル『精神現象学』の承認論

川瀬和也（横浜市立大学）

承認論はヘーゲル研究の古典的トピックだが、今なお、批判理論と分析的ヘーゲル解釈の双方で関心を集め続けている。本提題では、相互承認論が持つ内容中立性と独特の構造を明らかにすることで、承認論のさらなる展開の可能性を考えたい。まず『精神現象学』において、承認の内容が原理的には未決のままになっていることを確認し、狭義には道徳的行為主体として、広義には自己意識的主体としての承認があると整理する。次に、個人間の水平的承認、個人と制度の間の垂直的承認、両者が絡み合う「制度的に媒介された水平的承認」を区別する。そのうえで、良心論末尾の、道徳的行為主体としての相互承認の場面において、「全体」ないし「精神」という制度的なものが不可欠な要素として登場していることを指摘し、相互承認が二人の主体と制度からなる三項構造を持つことを明らかにする。